

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601258	
法人名	学校法人 久留米ゼミナール	
事業所名	グループホーム 国分つつじ苑	
所在地	福岡県久留米市国分町403-3	
自己評価作成日	平成22年8月22日	評価結果確定日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

バランスの良い献立と1日1000~1500mlの水分補給。ポカリ、バナナミルク、豆乳など毎日提供し、健康管理を行う。建物は平屋造りですぐに外気浴でき、天候の良いときは外でおやつ会などを催す。苑内は季節を感じる事の出来るよう花や壁画で飾り、屋内外のレクの写真など掲示して、入所者が落ち着いて過ごせる環境作りにかけている。また、職員全員が入所者一人一人の目線に立ち、個々の思い・希望、家族の思いに柔軟に対応出来るよう利用者本意の支援を行っている。月1回の外食(ランチ)はうなぎ、ジョイフル、寿司など入所者の好みで個別対応し、以前からのかかりつけ医や美容院へ送迎、なじみのお店への買い物など付き添っている。職員同士の情報交換も密に行い、明るく働きやすい職場になっている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

学校法人である母体が学生寮を活用して7年前に開設した事業所である。法人全体での指導、研修体制や、行政、他の事業所との連携等がある。1ユニットではあるが職員配置も多く、受診介助やスケア、個別外出等の細やかな支援がなされている。本年度は職員の離職もなく、家族の面会も増え、利用者にとって馴染みのある関係の中で、穏やかに安心して暮せる環境づくりや支援の充実がはかられていた。また、家族や医療機関との協力体制のもと本年度は、二名の看取り支援事例も見られた。対外的にも地域の美化活動や地域行事の参加や留学生ボランティアや実習生の受け入れ等、広がりを見せている。今後とも、地域、行政は勿論、多様な社会資源を活用しての展開が期待できる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか	
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ	
訪問調査日	平成22年9月8日	

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。)

### 自己評価および外部評価票

ユニット名: 国分つつじ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりをもつ理念を職員と作り上げており、運営の基本方針として理念を共有し日々取り組んでいる。	法人の理念に加えて、一昨年職員全員で意見を出し合い、理念の再構築に取り組み、ホーム内に掲示し、朝礼時に唱和している。笑顔と優しさを持って、地域の中で、その人らしく楽しく暮らせる毎日を支援の支柱とし、日常のケアを通じて理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物時は近隣の皆さんとの挨拶を励行し、町内会各種行事に参加し交流を深めている。職場体験学習、年末防犯警備、町内清掃、運動会、老人会等機会ある毎に積極的に参加している。	敬老会等の町内行事や清掃活動、公民館活動に参加し交流の機会を確保している。隣接する学生寮からのボランティア参加や、中学校の職場体験、ホーム行事として実施しているクリスマス会への地域からの参加等、幅広い世代と交流の機会を確保している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験学習の受け入れやクリスマス会へ地域の方を招待するなど認知症の人を理解してもらえよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の結果については、会議メンバー全員に配布し、今後の取組みを説明している。そこでの意見をサービス向上に反映している。	民生委員や地域の住民、包括支援センター職員、行政職員の参加のもと2ヵ月毎に開催している。会議では、事業所の活動状況や地域行事の情報提供、非常災害対策、各種勉強会等、幅広い内容が協議されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	久留米市主催の研修会、運営推進会議での市職員の参加、2か月に1度の状況報告などに常に連携を重視しながら協力関係を築いている。	運営推進会議には市職員の参加がある。また、行政主催のグループホーム協議会に参加しており、地域の同業者とも連携をとりながら、サービスの質の向上に活かしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者のプライバシー等尊厳を守り思いを尊重できる様日頃より全職員に周知し、身体拘束についても理解に努めている。玄関は午前7:30～午後7:00まで開放している。	施錠やベッド柵に限らず、行動制限や拘束、抑制について意識し、職員会議等で協議する等、啓発に努めている。環境整備や見守り等を重視しながら、利用者の自由と安全を守る為の支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『高齢者虐待防止法』についての施設内研修に参加。高齢者虐待がどのような行為なのかを理解し、虐待防止に努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回、カンファレンス会議後に職員との勉強会を実施している。利用者も権利擁護制度を利用されている。	外部研修への参加と同時に、法人全体研修やホーム内での勉強会を通じて、制度の理解と普及に努めている。加えて利用者、家族への制度の説明用資料を現在作成中である。	法人内研修等や説明用資料の作成等に取り組んでおられます。制度の活用に向けて支援の充実を期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約また解約時、その内容について説明し理解していただいている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の訴えは全職員が傾聴し管理者へ報告。又、自由に電話、面会、外出でき意思表示を可能にしている。意見箱の設置、苦情窓口を本部に設け意見を言えるようにしている。運営推進会議でも家族の意見を表明して頂き、その意見を運営に反映するよう取り	利用者や家族とは傾聴や面会の機会を確保し、意見や要望、苦情等を表出しやすい雰囲気づくりに努めている。意見や要望、苦情等の申し出に対しては、内容に応じてその場での回答や、職員会議又は法人内の会議で検討後、回答するなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	苑内では定期的に職員会議を開き意見や提案を募り、反映できるよう努めている。	毎月の会議及び1日2回のミニカンファレンスを設け、意見や要望、提案等ができる機会を確保し、運営や実際の支援の中で反映できるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面での改善、正規職員への採用、研修の支援、人員配置にも配慮するなど、職場環境、条件での整備に努めている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は介護への思いを大切にしており性別、年齢で差別はしていない。労働時間もほぼ規定内に収まるようにしている。ローテーションも本人の都合を聞き休日をあわせるなど配慮している。	職員採用については、年齢や性別、資格等については特に制限を設けず、理念への共感や介護に対する意向等を重視している。採用後は、職員本人や家庭の状況に応じて就業しやすい勤務調整を行い、働きやすい環境づくりに努めている。この過程を経て資格の習得や、離職ゼロ等の成果が見られた。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の尊厳・人権を守ることを日頃から全職員が心がけ対応している。また人権教育として毎月本部より会報を出し、全員に周知し啓発している。	内外の研修計画に、高齢者にまつわる権利擁護や身体拘束、虐待防止等を位置付けている。また、法人本部が発行する会報の中でも、幅広いテーマにとりあげ人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験、力量に応じ研修会への支援、資格取得のすすめなどを行っている。内部での研修も随時行いレベルアップに努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護事業者協議会のグループホーム部会に加入し、交流や勉強会を行っている。また同校区のグループホームとは連携を図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前から関わりのある施設職員や家族から十分に情報収集をおこない更に体験入所を行い信頼関係を築けるよう行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族とゆっくり話し状況を把握した上で、その後必要な支援、サービスを利用できるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入苑以前までに関わってきた医療機関、介護施設その他の関係諸機関からの情報提供並びに家族から聞き取りを行い適切な対応が出来るよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いろいろな場面での喜怒哀楽を共にしながら、学び、支えあう関係を大切に、利用者の状態に応じ、一緒に買い物、皿拭き、衣類たたみ、自室の整理整頓等利用者が出来ることを促し、支援している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自立した生活を支援するものであることを、家族にも説明し共に支えて行く関係を築けるよう勤め、外出や誕生会などの行事等には積極的に家族への呼び掛けをしてお誘いしている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の病院・美容室が継続できるよう支援し、また、関係が途切れないよう電話を利用したり、行きつけの店へ買い物に行けるよう支援している。	朝夕の礼拝や新聞の購読等、利用者の趣味活動や習慣等が継続できる様に支援している。また、近隣の友人、知人の訪問や理美容室の利用等、馴染みの人達とも交流する機会が保てるように支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよい者同士、隣席になるよう工夫し、毎日のレクリエーションや各種行事などでは孤立しないようスタッフが工夫している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする利用者の家族には、出来る支援を行い関係を大切にしたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係機関からの情報収集に努め本人の趣味、性格、身体機能を考慮し思いのままに生活してもらっている。	利用前の面談、ホームでの様子や日々の会話を通じて、本人の思いや意向を把握し、カンファレンスや記録にて共有している。思いや意向の表出が希薄な利用者に対しても、日常の会話やしぐさ等から本人の意向を汲み取り、介護計画へ反映させ支援している。	昨年より書式の改定に取り組み、利用者の言葉や、日常の様子、細やかなしぐさ、推し量られる状況等、詳細な情報が多大な記録として書面化されていた。情報の活用とサービスの質の向上にむけて更なる取組みを期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集をもとに暮らし方を考えている。家具、日用品等については馴染みのものを使用して頂くよう家族とも相談している。仏壇の持ち込みも可能。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の精神的、知的、身体能力、生活歴を出来るだけ把握し、有する能力を導き支援している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、モニタリング、家族等の意見を聞きケアプランに反映している。	毎月及び1日2回のミニカンファレンスを実施し、利用者についての情報交換や確認を行っている。定期的なモニタリング、評価、見直しのほかに、心身状況に変化が生じた際もその都度対応し、関係者で話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に1回カンファレンスを行い見直し検討を行っている。また、毎朝の申し送りにて情報を共有し介護計画に生かせるよう努めている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて病院送迎、訪問歯科、訪問理美容、訪問マッサージ、その他買い物支援等柔軟な支援を行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、自治委員の支援を受け地域交流を行い、消防機関の協力をも得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により入所以前の主治医を継続して支援したり、本人の状態に応じた医療支援もを行っている。また、事業所協力医には24時間、緊急対応してもらっている。	主治医は、利用者家族が選択し、受診介助は事業所が支援している。協力病院による定期往診や緊急時の対応が可能であり、看取り支援にも対応している。他にも地域の医療機関や訪問看護とも連携し、適切な医療が受けられるように支援している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり24時間対応している。各種研修会等にも参加し、他の医療機関等の相談助言も得られる。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院できるよう適切な医療支援を得ている。又、他の医療機関とも交流に努め備えている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについての説明、理解を書面に得ている。尚、利用者及び家族の意向を十分受け入れ、スタッフ、主治医と情報を共有し終末期介護を行っている。施設内で可能な医療処置を確認し本人、家族の意思を尊重したチーム全体での支援を行っている。昨年度、2名。	重度化に関する指針と事業所で対応できる支援内容や段階的な利用者、家族への支援手順等を説明し、同意書を取り交している。利用者、家族の状況や意向に応じて関係者で情報を共有しながら支援している。この過程を経て、本年は2名の支援事例がみられた。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による普通救命講習や看護師による応急手当の講習を実施している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内に学生寮があり、寮長を通じ緊急時には避難救助できるよう計画している。	定期的に消防署が立会い、避難訓練を実施し、避難経路の確認や消火器の使い方などの指導を受けている。本年度は自動警報・通報システムの設置等のハード面での充実も見られた。運営推進会議の中でも災害時対策を協議している。	本年度は運営推進会議での協議やハード面での充実がみられ、現在は自治区も非常災害時対策の構築に向けて計画されているようです。地域とともに包括的な災害時対策に取り組まれて行くことを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや記録の内容について、職員同士が意見しあい、利用者の尊厳と人権を守ることを心がけ対応している。	言葉遣いや対応については、勉強会やその都度の指導を行い、利用者に対する優しい表現での言葉かけや温かく接する様子が伺えた。個人情報保護についても規程を設け、個人記録の管理や漏洩の防止に努めるなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いをよく傾聴しスタッフの考えが中心にならないよう利用者本位の支援を大切にしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで一切制限することなく散歩、買い物、入浴その他娯楽等自由に行えるよう支援している。また、各種行事は本人の体調や意思を十分に尊重し行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ等の整容は本人の意見を尊重し支援しているが、おしゃれは利用者自身の趣味や希望に沿って個別に支援している。また、入所前の美容院に送迎している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員も一緒に食事し、個人の能力に応じ、後かたづけ等を共に行っている。	食事提供を重要な生活活動ととらえ、利用者職員が協力して行っている。また調理を考慮し職員を多めに配置している分、利用者の支援に反映され、表情も穏やかに食事を楽しんでいた。美味しくバランスのとれた献立で殆どの利用者が完食されていた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、昼、夕の食事量の確認、チェック、記録。体重測定、医師による定期的検査を行い、個々の状態、変化に応じ食事や水分の摂取を支援している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立にて歯磨きができる利用者には、毎食後声かけ及び誘導を行い全介助入居者には歯磨き介助を行っている。口腔ケア拒否ある時はうがい剤を使用し、清潔保持に努めている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表にて利用者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導・声かけを行っている。	利用者毎の排泄パターンを把握し、介護計画書に位置付け、個別に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日テレビ体操、水分補給及び毎日屋外散歩を行うなど便秘予防に努めている。献立にはなるべく野菜を多く採れるように工夫している。また、毎朝バナナミルクを提供している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、朝から夕まで開放しなるべく希望の時間に自由に入浴できるように支援している。個浴を実施している。	可能な限り、毎日、好きな時間帯で入浴できるように準備している。お風呂が苦手な方にも声をかけながら、最低でも週3回以上の入浴、随時のシャワー浴を行う等、清潔保持の機会を確保している。また、皮膚を乾燥から保護するケア等の細やかな支援もみられた。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息、就眠出来るよう消灯時間や就床時間を設定していない。また、室温の調節をこまめに行い、安全で快適に安眠できる環境に配慮している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の処方箋一覧表を作成し、常時、閲覧出来るようにしている。また状態の変化に応じ医師への相談、服薬の調整などに努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の皿拭きやピアノ演奏それぞれの能力や趣味を生かせるよう支援している。又、お菓子等は希望時近くの店へ買い物に同伴している。移動パン屋(1/W)利用し、楽しみにされている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調、能力、歩行状態に応じ一緒に出かけるメンバーや行き先に配慮しながら、なるべく希望に添えるよう支している。	桜や藤の花見、毎月の外食、日々の散歩、買い物、家族との外出など、その都度要望に応じて戸外へ出かけられるように支援している。調査当日も、数名の利用者が外食を楽しまれていた。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時はスタッフは付き添うが支払いは本人が支払うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望でいつでも電話が掛けられるよう制限はしていない。手紙は一緒にポストへ投函している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間としてはそれぞれが広く、ゆっくり出来るスペースを確保している。四季折々の花で彩り季節感を出し、ピアノを置き居間の雰囲気を作るなど工夫している。	リビングは明るく、キッチンとも面しており、日中は自然と皆が集い、くつろげる空間となっている。職員が常に利用者に対し背中を見せない立ち位置を意識する等、ハード、ソフトの両面から安全かつ安心して過ごせるように配慮されている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを設置し思い思いに過ごせるようなスペースを確保している。利用者同士の過ごし方も個々の思いを大切に支援している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が長く使い慣れた日用雑貨を利用するように勧め、仏壇の持ち込み等、自宅の延長の雰囲気をかもしだし居心地に工夫している。	利用者の意向や身体状況に応じて、畳やフローリング、布団、ベット、マットレス等が選択できるようにしている。筆筒やテレビ、仏壇や炬燵等、利用者の馴染みの物を配置し、可能なかぎり自宅の状況を再現し、ゆっくりと落ち着いて過ごせるように工夫されていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベット、布団、トイレ等各人の心身状態に応じた環境作りを行い快適で安全に暮らせるように工夫している。なお、廊下、居室、共有場所はバリアフリーを実施。混乱が招かないように居室、トイレ、玄関、風呂場等わかりやすいように壁に明記している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		